

## 令和5年度第1回総合教育会議 要旨

1	日 時	令和5年5月25日（木）午後1時30分から午後2時30分まで			
2	場 所	本庁舎2階 庁議室			
3	出 席 者	<b>【委員】</b>	<b>【事務局等】</b>		
		郡山市長	品川 萬里	政策開発部長	佐藤 達也
		教育長	小野 義明	政策開発部次長	石橋 智之
		教育長職務代理者	阿部 亜巳	教育総務部長	寄金 孝一
		教育委員	今泉 玲子	学校教育部長	嶋 忠夫
		教育委員	阿部 晃造	こども部長	相楽 靖久
		教育委員	藤田 浩志	こども部次長	伊藤 克也
		教育委員	田中 里香	学校管理課長	二瓶 元嘉
				学校教育推進課長	日下 明彦
4	内 容	<p>議 題 （1）当面の諸課題について</p> <p style="margin-left: 20px;">① いじめ対策</p> <p style="margin-left: 20px;">② 学校事故対策</p> <p style="margin-left: 20px;">③ 教員の働き方改革</p> <p>報 告 （1）全国体力・運動能力、運動習慣等調査</p> <p style="margin-left: 20px;">（2）福島県ヤングケアラー実態調査</p>			

5	議事内容	<p><b>1 開 会</b>  令和5年度第1回郡山市総合教育会議を始めます。本会議は法律の規定により原則公開で行うこととなっているためウェブによる動画配信を行う。</p> <p><b>2 市長あいさつ</b>  ○品川市長  今回の会議には、現在課題となっていることを挙げさせていただいた。それらをどういう順序で、どう組み合わせて、教育委員会として、また、市として取り組んでいけばよいか、委員のみなさんにご意見いただきたい。</p> <p><b>3 議題 ①いじめ対策</b>  (学校教育推進課長から説明)</p> <p><b>3 議題 ②学校事故対策</b>  (学校管理課長から説明)</p> <p><b>3 議題 ③教員の働き方改革</b>  (学校管理課長から説明)</p> <p><b>4 報告 (1) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査</b>  (学校管理課長から説明)</p> <p><b>4 報告 (2) 福島県ヤングケアラー実態調査</b>  (こども部長から説明)</p> <p><b>国籍別人員調査表及び郡山市内の留学生数について</b>  (政策開発部長から説明)</p> <p><b>外国籍の児童生徒について</b>  (学校教育推進課長から説明)</p> <p><b>いじめ LINE 相談 (福島県弁護士会、日本弁護士連合会主催) について</b>  (阿部教育長職務代理者から説明)</p> <p>○品川市長  経営者協議会等では、本日のテーマの中で、何か話題になったことはあるか。</p>
---	------	---

○阿部委員

本日のテーマの中では特にはないが、現在、経営者の中では採用に苦慮しているという問題がある。中小企業で良い人材を確保するのが難しい。

3月4月は就職や進学で郡山を離れる人が多い。

少しでも郡山市の労働人口、住民を増やしたいがなかなか思うようにいかない。

郡山市は子育てがしやすい街だという話をきいたことがある。ハード面ソフト面それぞれに環境が整っているということがあると思うが、それが十分に発揮されていないとすれば残念だと思う。

○品川市長

郡山市の自然動態としては、本市の出生数は1974年をピークに減少している。しかしながら、2020年の国勢調査によれば、年齢によればらつきはあるが、県内13市の中で0歳から18歳までの人口は郡山市が一番多かった。福島市と郡山市で18歳人口が大きく下がっていないのは、市内に3つの大学があり、そこに進学等するという状況があるために市外への流出が少ないのかなと思うが、なるべく市内に進学、就職してもらえるように、経営者団体とも協力して考えていきたい。

○阿部委員

労働人口の減少に伴い外国人労働者の方が増えると、教育がますます大切になってくる。日本で長く戦力になってくれるような子供たちが育ってくれば街にとっても良いことだと思う。

○品川市長

技能実習生の受け入れなどを考えたときに、弁護士事務所での相談や、病院での外国人患者さんの受診等について、様々な対応が必要であろうと思う。

農業の分野ではどうか？

○藤田委員

農業の分野では技能実習生を多く受け入れているが、労働力としか見ていないという事例があった。

実際に街に住んでもらう、住民として来てもらおうという視点を持つことが大切。また、外国籍の方の教育環境を整えていくことが重要になってくると思う。農業界だけでなく、社会全体が連携して、海外からおいでのなる方々の子育てや教育などの環境をどう整えていくかが大きな課題である。

○品川市長

ファッション業界ではどうか。

○今泉委員

以前、本校で学んだベトナム人の女性はとても熱心に取り組んでいた。現在は日本とベトナムのファッション界で活躍している。

しかし、色々な場面で話を聞くと、外国人の方の受け入れについては、生活面で少し大変だという話を聞くこともある。

○品川市長

病院では、外国籍の患者さんが来ることもあるか。

○田中委員

患者さんというよりも、介護職での人手不足により、外国籍の実習生を受け入れて技術を教えるということがあがあるが、非常にまじめで一生懸命勉強する方が多いという話を聞く。介護の分野で、そういう方の力を借りることの必要性を感じる。

○品川市長

委員の皆さんの話を聞いて、「誰一人取り残さない」というSDGsに全て通じていると感じた。国籍を問わず、誰一人いじめられる子がない、生活に困らない、そういったことを一つの概念として総合教育会議の中で連携させながら前進させていくことが効果的だと感じた。

本日出されたテーマについて、プロの立場から総合的に分析し解決策を出していけるのではないかという気がしており、郡山発でそれぞれの分野で問題提起をしていただくと良いと思う。

ヤングケアラーについては、当事者は特別なことをしているという意識がないため、行政からの支援を積極的には望まないケースがある。プライバシーの問題もある。社会的な問題として取り組まなければならないし、ヤングケアラーの方々が横のつながりを持つための触媒役を行政が担っていかなければならないと考える。

どの問題にしても、最終的には、法的にどうかという視点も大切になってくる。

また、教員の働き方改革が重要な問題の一つだと思う。

授業の始まりから定時が過ぎれば帰るという体制に整えなければ、教員になりたいという希望者がいなくなってしまうと思う。

本日出された問題について、まずはゴールを決めて、どこからスタートしてどう解決していくかというように組み立てなければならない。

○教育長

教員が、正規の勤務時間を超えて在校している時間の累計が1か月あたり45時間を超えないようにというのが国の方針であり、各学校で、会議の持ち方や校務支援システムの利用、行事の精選など様々な工夫をしながら取り組んでいる。併せて、児童生徒の長期休業の期間には教員も積極的に

		<p>休暇をとれるように、また、年次有給休暇も取得しやすい環境を整えるなどトータルで教員の働き方改革を進めているところである。</p> <p>今年度、全校をコミュニティスクールに指定したので、学校運営協議会の一つのテーマとして、教員の働き方改革について地域の方々にもしっかりとご理解いただきながら学校をサポートしていただく、また、学校も地域をサポートしていくというような形を進めていきたいと考えている。</p> <p>○品川市長 何か議論を始めるときに、それぞれの分野の法律がどうなっているのかというところから問題を整理していくことが一番大切だと考える。 どういう法律をもとに考えればよいのか等アドバイスいただければと思う。</p> <p>○阿部委員 チャット GPT の活用について市としてどう考えているか。</p> <p>○品川市長 チャット GPT については、どう活用できるか以前から考えている。チャット GPT の行政における活用についての研究をしていく。</p> <p>○阿部委員 教員の働き方改革の中でも、先生の資料作成などで活用していけるのではないかと思う。研究を進めて、少しでも時間短縮につながるように活用すれば良いと思う。</p> <p>○政策開発部長 これまでも、チャット GPT がどのように活用できるか内部で進めていたが、6月からワークショップを開催し、各所属の若手職員や学校関係者などを含めて、実際にどのように活用できるかを研究し、6月の末には報告会を実施していきたい。</p> <p style="text-align: center;">5 閉会</p>
6	会議資料	(1) 第1回総合教育会議次第資料 2023.5.25